学校だより　　学校スローガン「殻を破れ！一歩前へ」

西有家中　No４

令和４年　６月８日
南島原市立西有家中学校
校長　本多　洋二

令和４年度南島原市中学校総合体育大会

球技・武道大会開催間近！

令和４年度南島原市中総体球技・武道大会が、いよいよ４日後に迫りました。１２日・１３日の勝負の時に向け、それぞれの部が最後の追い込みに汗を流しています。今まで練習で培った技と力を十二分に発揮し、自分を信じ、仲間を信じて、悔いが残らない大会にしてほしいと思います。

市中総体各競技対戦相手

○バスケットボール競技・・・西中体育館
女子：対布津中　１１：００開始

○バレーボール競技・・・・・布津中体育館
４チームによるリンクリーグ戦（予選ﾘｰｸﾞ）
１試合目－対布津中９:２５開始、
３試合目－対有家中

○軟式野球競技・・・有家総合運動公園
対有家中　　１１：１０開始

○卓球競技・・・口之津体育館
男子団体：西有家中・有家中・加津佐中の３チームによる総当たり戦(１３日)
女子団体：西有家中・口之津中・有家中の３チームによる総当たり戦(１２日)

○サッカー競技・・・・南島原市多目的広場
対北有馬中９：３０開始
対深江中１４：５０開始

○ソフトテニス競技
男子：有家総合運動ﾃﾆｽｺｰﾄ
女子：北有馬ふれあい広場
男子団体：予選４チームによる総当たり戦）
対有家中９:００開始
女子団体：予選３チームによる総当たり戦
対深江中９：００開始

「掃除」と「清掃」

以前、掃除と清掃のことを次のように聞いたことがあります。
「掃除」は「掃き除く」、「清掃」は「掃き清める」このとき心も掃き清められる。

西有家中学校では、清掃時間の前に各所定の場所に集合し、目標を確認すると共に黙想をした後、無言清掃に取り組んでいます。下の写真は、黙想している様子と、実際に無言清掃をしている生徒の風景です。

床に膝をつき、黙々と拭きあげる３年生の姿を見て、まさしく、自らの心を掃き清めていると感じました。こんな生徒が多い西有家中学校です。

無言清掃の前に黙想する生徒たち。黙々と無言清掃に取り組む三年生、床と同時に自らの心も磨いています。

訂正（期末テスト前部活動停止期間）

前号（第３号）の学校だよりで、期末テスト前部活動の活動停止期間を２３日（木）～２９日（水）としていましたが、**２４日（金）～２９日（水）**ですので、お詫びして訂正いたします。

ブレークコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

自　尊　感　情（その１）

「自尊感情」というのは、自分の性格や特徴について、弱さや欠点も含めて、これでいいと思える気持ちです。

国際比較調査では、日本の子どもたちの自尊感情が、諸外国と比較して、低いことが指摘されています。

「自尊感情」が低い子どもは、自分自身に自信がありませんから、精神的に不安定になりやすいし、人間関係に様々な問題を起こしやすくなります。以前、ある講演会で、皆さんよくご存知の「ドラえもん」の登場人物を例にして、「自尊感情」について話をされていましたので紹介します。

のび太くんのお母さんは、のび太のことをとても愛しています。それは間違いありません。親ならその気持ちは十分伝わってきます。

しかしながら、普段、のび太にかける言葉は、「宿題はまだなの」「どうしてこんな点しかとれないの」「はやくしなさい」など、否定的なことしか言いません。日本の子どもの「自尊感情」の低さは、のび太くんのお母さんタイプが多いからだと考えられます。お父さんも同様です。 一方、ドラえもんは、「だいじょうぶだよ」「のび太くん、できるよ」と励まします。しずかちゃんも同様です。

のび太くんのお母さんは、のび太のことをとても愛しているし大事に思っているのに、結果的にはのび太の自尊感情を下げているのです。

のび太くんのお母さんのように自尊感情を下げさせないためにはどうしたらいいでしょうか。 それは、結果だけに目を向けないということです。ほめ方について、結果だけで評価すると、できたら〇、できなければ×になって、子どもは努力を評価してもらえないことになります。それよりも、経過に目を向け、「頑張っていたね」というようなほめ方をすれば、子どもは見ていてくれたという気持ちになります。

また、「やさしいね」とか「そのままでいいよ」というありのままを評価することは安心を与える、「私は～思う」「うれしい」「ありがとう」などのアイメッセージは愛情を感じるということです。「次〇〇すればできるさ」「期待しているよ」という励ましや期待は、やる気が出るということも講演の中で言われていました。

ほめることを中心にすることは大事なことですが、叱るということも必要です。個性には伸ばした方がよい個性と伸ばしてはいけない個性があります。それを選別し、選定し、剪定しなければなりません。

だから、叱ることは必ず必要なことですが、問題は叱り方です。「叱ることは考えさせること」だと思います。どんな叱り方が適切か考えてみてください。（続きは次号で掲載します。）